

平成30年度事業計画の件

1、事業方針と計画

事業方針

今まで行ってきた事業をしっかりと継続していくと共に、事業規模の拡大に伴う体制をさらに整えていきたいと思います。 人的にも財政的にも厳しい状況にありますが、考え方を柔軟にして、より良い方法を探り常により良い方向に進みたいと考えております。

一昨年度末に立ち上げたグループホーム事業が幸い順調に経過しており、希望者のために若干の増室をしました。今のところ組織体制として限度に来ておりますので今後については当面現状維持とし、状況に応じて展開させたいと考えております。

事業計画

I 相談支援事業（ホワイトジーニアス）

- ・メール、電話などを用いることで来所が困難な利用者にも相談窓口を設ける。
- ・本人のみでなく家族・親族とも面接を行うことで、意見の食い違いや問題意識のズレを早期に修正する。また本人不在の支援を防ぐ。
- ・家族と面談し、家族側の悩みや障害に関する悩みや疑問の解消につとめることで高EE（高い感情表出）を防ぐきっかけを作り、当事者の再発・病状の悪化防止につなげる。
- ・家族の面談場所も設けることで、孤立した支援状況を作らない。
- ・面談以外の場所でもこまめに利用者と話したり接したりする機会を作り、常に本人主体の支援を目指めざす。これは利用者本人に「スタッフに気にかけてもらっている」という安心感を与える。
- ・生活内の問題行動を、いつどのような時に起きているのか生活表を用いて確認し、生活の問題点を把握する。この生活表は利用者ごとに異なるものを用意し、本人の身体、精神状況や知的能力、判断能力に応じたものを作成することでより正確に病状を把握する。
- ・食事・気象や清掃・入浴などの生活管理が困難な利用者に対し、生活表を用いて日々の生活内の改善点を把握させる。また、支援者もこの資料を用いて体調不良のきっかけや、生活内の問題点を把握する。
- ・金銭管理が困難な利用者に対し、金銭管理表の作成、生活費の仕分けなどをする。
- ・地域の清掃や手伝い、イベントへの参加をすることで地域の人々に活動や存在を認めもらう。
- ・地域や仲間の役に立つことで自己肯定感を高める。
- ・定期的に活動することで生活にメリハリをつける。

- ・地域に貢献することで、円滑な地域生活を目指す。
 - ・料理教室などから生活上必要なスキルを身に付ける。
 - ・呼吸法や体力向上など、定期的に体を動かすことで病気や障害によって起こる体力低下とそれに伴う身体症状劣下を防ぐ。
 - ・映画鑑賞、朗読会、文学作品の感想文披露、ぬりえ、デッサン等文化的活動を行い、表現する楽しさを知ってもらう。
 - ・演算問題の実施による頭の体操・障害者関連各種イベント及び、スポーツ大会への参加
 - ・脳トレプログラムを週3回の午前に行う。
- 足し算や引き算のます計算プリントや紙切り、認知症予防に高い効果があるとされるデュアルタスクトレーニングプログラムを行って機能の改善を目指す。

II 就労支援事業（イエローハート）

従来通りの活動で体制を維持していくが、特に食品を扱う事業が主体であるから、作業所内の衛生面や従事者の保健面に留意したい。

作業環境（炊事場の改善、搬送車の点検整備）の見直しなど十分に注意を払いたい。

III 共同生活援助事業（グリーンフェロー）

順調に経過しているが今後もこれを維持しさらに質を高めていきたい。

現在の体制は利用者6名 2名増員の予定である。

IV その他全般

- ・事業を通じて利用者にはお花見や一泊旅行など季節に応じたイベントを催し、これに参加してもらう。旅行計画等先々の予定があることで体調管理や金銭管理を普段の生活内で意識させること、公共交通機関の使用により社会経験を積み重ねることもねらいである。
- ・ボランティア育成や障害に対する理解促進を図るために、機関紙の発行やブログなどのネットツールを利用して、イエローハートの活動をPRしたり、地域交流活動として地域の障害者関連の各種のイベントへの参加を行う。

30年度の主な行事予定

月 日	行 事
4 月	お花見・スポーツ
5 月	福祉祭り出店
6 月	総会・湖北祭りバザー出店
7 月	映画鑑賞
8 月	GH運営会議
9 月	一泊旅行 常磐ハワイアンセンター予定
10 月	防災訓練・福祉フェスタ
11 月	秋のイベント参加
12 月	忘年会
1 月	新年会